

瀬戸内市 ーせとうちー



岡山県の南東部に位置する瀬戸内市は、瀬戸内海国立公園を形成する島しょ部や海岸線をはじめ、オリーブ園等の緑豊かな丘陵や田園などの自然に恵まれ、美しい景観で彩られたまちです。瀬戸内市は牛窓・邑久・長船の3つのエリアに分けられ、地域ごとに見どころがあります。



牛窓エリア

牛窓エリアはその美しい景観から「日本のエーゲ海」とも呼ばれています。マリンスポーツを楽しむことができるほか、日本有数のオリーブの産地としても有名です。

冬季は温暖で日照時間が長いことからキャベツなどの露地野菜の県下有数の産地でもあります。



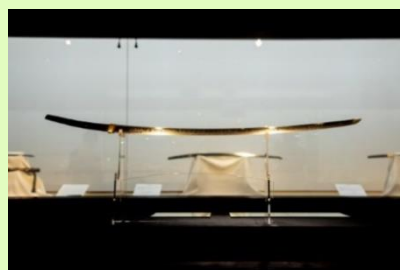
邑久エリア

邑久エリアは千町平野の田園風景や牡蠣筏が浮かぶ虫明湾の朝日など美しい景色が楽しめます。大正ロマン画家・竹久夢二や世界的に活躍した糸操り人形師・竹田喜之助など日本を代表する優れた文化人の故郷でもあります。



長船エリア

長船エリアの特徴は「日本刀」。備前刀生産の中心地として歴史があり、今でも刀匠の手で伝統の技を活かした刀が制作されています。2020年3月にはふるさと納税によるクラウドファンディングで国宝「山鳥毛」が里帰りしました。



瀬戸内市マスコットキャラクター
セトちゃん

人と自然が織りなす しあわせ実感都市 瀬戸内

実現のための4つの基本目標

1 地元ではたらくことができるまち

既存産業の持続的発展を支援するとともに、新しい雇用を創出するために企業誘致や農水産業・観光等の地域資源をいかした産業の創出、起業・創業の支援を実施し、稼ぐ地域づくりを行います。また、家庭と仕事、地域行事との両立ができるよう働きやすい環境への啓発を行う等、働きやすい魅力的な就業環境づくりに向けた取組を行います。

2 「このまちとつながりたい」、「このまちで家族と暮らしたい」と思われるまち

市民の郷土愛を育むとともに、多様な形で地域に継続的に関わる「関係人口」の創出・拡大に取り組みます。また、県南ならではの過ごしやすい環境をPRし、受入体制を整備して定住・移住人口を増やします。加えて、誇れる観光資源をいかした観光振興に取り組み、交流人口を増やして関連する産業の活性化を図ります。

3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるまち

結婚・出産の希望を持ちながら実現していない人への支援や、子どもが安心して遊ぶことができる場の整備や子育て支援策の充実のほか、子どもがいても働ける環境づくりに取り組みます。また、教育については学校教育に加えて生涯学習環境を整備し、多様な学びの場の提供と子どもの居場所づくりを行います。

4 ひとが集い、安心して暮らせる魅力的なまち

将来にわたって地域コミュニティが存続するよう、公共交通や生活基盤等のハード面の整備を進めます。また、市民が安心して暮らすことができるよう、防災・減災の取組や、医療・福祉サービスの充実を図ります。加えて、他市町村との協力・連携体制を構築し、地域課題に応じて将来を見据えたまちづくりを行います。

実現のための2つの横断的目標

多様な人材が活躍するまち

地方創生の更なる推進のため、多様化・複雑化する地域の課題解決に向けて、市民、企業、NPOなど地域に関わる一人ひとりが地域の担い手として自ら積極的に参画できるよう、多様な人々が活躍できる環境づくりを行います。

また、女性、高齢者、外国人など誰もが活躍し、誰もが居場所と役割を持つ地域社会の実現に向けた取組を行います。

●協働のまちづくりの推進

●誰もが居場所と役割を持つ地域社会づくりの推進

等

新しい時代の流れを力にするまち

SDGsを原動力とした地方創生を推進し、経済・社会・環境を巡る広範囲な課題解決に統合的に取り組み、「誰一人取り残さない」持続可能なまちづくりを推進します。

また、市民生活の利便性と満足度を高めるため、Society5.0の実現に向けた技術の導入に向けた環境整備を行い、未来技術の活用による地域課題の解決、地域の魅力向上を図ります。

●地方創生SDGsの推進

●未来技術の活用による地域の魅力向上

等

瀬戸内市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業

地方創生に関連する事業への活用のため、企業版ふるさと納税による寄附を募集しています！

重点 施策

こどもひろばプロジェクト



子ども・子育て支援

総事業費

50,000,000円

現状・課題

少子化、核家族化など社会状況の変化により、子どもの遊び環境も大きく変化し、屋外で遊ぶ「時間」や「場所」「仲間」が減少傾向にあります。

子育て世代の親からは、「子連れで出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」という意見が多くあり、親子が安心して楽しめる遊び場の環境整備が必要とされています。



数値目標

- ・令和6年度「こどもひろば」参加人数 6,750人
- ・「こどもひろば」開催回数 150回

事業の目的・内容

～外遊びを楽しむまち。瀬戸内市の実現～

市全体が子どもの遊び場となり、赤ちゃんからお年寄りまですべての市民が参加できる「こどもひろば」を推進します。



こどもひろば ウォータースライダー体験

【主な取組】

外遊びを楽しむ「こどもひろば」の開催や遊びの環境づくりに関わる人材の養成、また、遊びの道具や材料を積載した移動遊び場「プレーカー」で市内を巡回し、市内どこでも安心して遊べる場所と機会を提供します。



お問合せ先

瀬戸内市こども家庭課（電話：0869-24-8015）

重点 施策

山鳥毛里づくりプロジェクト



山鳥毛

里づくりプロジェクト

観光振興
歴史・文化振興

総事業費

18,000,000円

現状・課題

本市は、刀剣の中で日本一の質と量を誇る備前刀の中心的生産地として有名です。2020年には上杉謙信の愛刀「山鳥毛（国宝）」が、生まれ故郷である「瀬戸内市長船」への里帰りを果たし、また人気ゲームとのコラボレーションも話題となり「日本刀の聖地」として注目されています。

この盛り上がりを一過性のものとせず持続可能な取組みとし、地域活性化とともに次代に繋げることが重要です。



国宝「太刀 無銘一文字（山鳥毛）」

数値目標

令和6年度 備前長船刀剣博物館来館者数 38,000人

事業の目的・内容

～山鳥毛を活用した特色あるまちづくりの実現～

国宝「山鳥毛」を活用しまちの賑わいを創出することにより、関係・交流人口や地域消費を増加させるとともに、日本刀文化の伝承とシビックプライドの醸成を図ります。



刀剣体験イベント「長船真剣勝負」の様子

【主な取組】

- ・山鳥毛を活用した展示企画（集客）
- ・山鳥毛を活用した観光振興（周遊）

お問合せ先

瀬戸内市文化観光課（電話：0869-22-3953）

重点 施策

ハンセン病療養所 世界遺産登録推進事業



歴史・文化振興

総事業費

12,000,000円

数値目標

—

現状・課題

本市は全国で唯一「長島愛生園」「邑久光明園」の2つの国立ハンセン病療養所を擁する基礎自治体です。現在両園の入所者数は約130名、平均年齢は88歳を超え、療養所の歴史やハンセン病の記憶を語り継ぐ人が年々減少しています。

人権回復を目指して闘った人々の想いが、長島には有形・無形に遺っています。差別の歴史を繰り返さないために、それらを風化させることなく、後世へ伝えていくことが重要となります。



人間回復の橋(邑久長島大橋)

事業の目的・内容

～強制隔離の島 長島を世界遺産に～

本市・長島を世界遺産に登録することにより、ハンセン病療養所にある歴史的建造物や貴重な資料、数多くの回復者の証言を保存し偏見や差別のない未来へ繋げていきます。



収容棧橋

【主な取組】

- ・島内に遺る建造物の学術調査、保存、改修工事
- ・啓発を目的とした授業、講演会の開催

お問合せ先

瀬戸内市ダイバーシティ推進室（電話：0869-22-3922）

重点 施策

食のしあわせプロジェクト



子ども・子育て支援
農業振興

総事業費

100,000,000円

数値目標

—

現状・課題

ライフスタイルの多様化等の影響により「孤食」や「子食」など子どもたちの食事環境や栄養面の問題が浮き彫りとなっています。

そこで、子どもたちの食生活の中で大きなウエイトを占める給食に地場産物を活用することで、子どもたちが自分自身の食べる物に関心を持ち、命の大切さや食への感謝の気持ちを育んでいける環境をつくっていくことが重要です。

また、給食への地場産物の活用を増やすためには、市内の生産者を支援する取組も必要です。



事業の目的・内容

～めざせ地産地消率100% 子どもたちの給食～

市内の保育園・こども園、幼稚園、小中学校において、給食に地場産物を活用することで、子どもたちの豊かな食経験や健やかな成長の一助とするともに、生産者の支援をおこないます。

【主な取組】

- ・給食による地産地消の推進
- ・環境負荷低減農業の推進
- ・食育の推進
- ・こども食堂の運営支援 など



お問合せ先

瀬戸内市産業振興課（電話：0869-22-3934）